

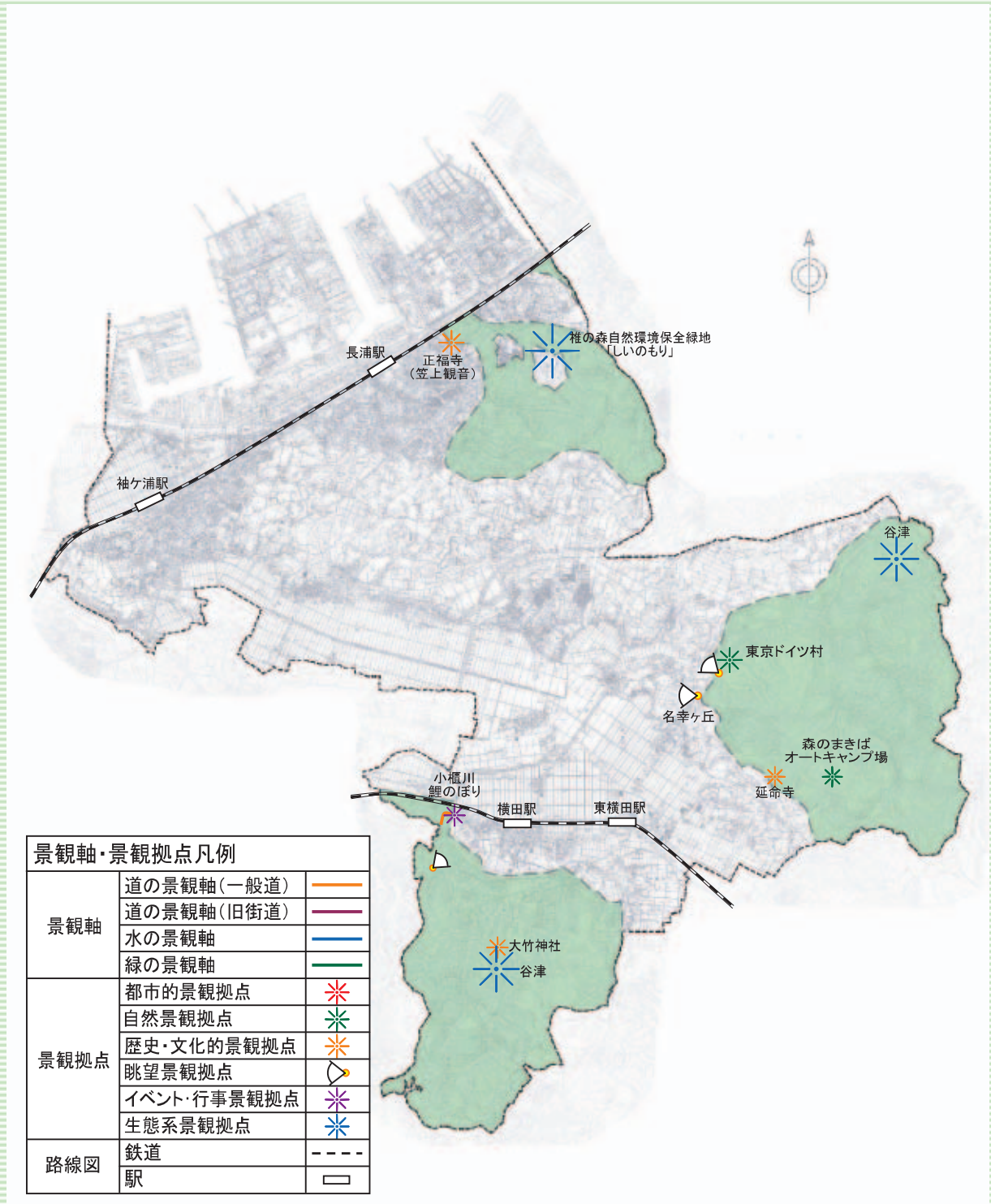
1 里山エリア

地区の目標

里山を身近に感じ、緑が与える恩恵や、緑の大切さを認識し、
気軽に訪れることのできる景観まちづくり



主に丘陵地の樹林や、斜面林、里山等の緑地一帯



■ 3. 良好な景観の形成に関する方針 ■

景観の特徴

- 本市の景観を特徴づけている斜面林や谷津等の豊かな里山景観が広がる地域です。里山には、昔ながらの集落が形成され、緑と住宅が調和する里山特有の景観を作り出しています。
- 手入れされた農道は、人にいやしを与える景観の一つです。里山の手入れや散策等、積極的に地域に親しみ、里山、斜面林、田園風景等、豊かな自然を活かす環境づくりを行う必要があります。
- 多くの建築物では、無彩色や、暖かく自然な印象を作り出している黄赤（YR）系、黄（Y）系色相の高明度、低彩度色が使用されています。



景観形成の基本方針

里山や谷津などの自然環境の保全



- 背景となる森林や山並みと調和した建築物等の配置とする。
- 緑豊かな自然環境の適切な維持管理に努める。
- 季節に応じた里山の手入れにより、親しまれる里山の環境を守る。
- 土石の採掘、盛土等を行った場合は、周辺環境と調和した緑化を行い、自然環境を復元する。

多くの生物が生息する豊かな自然環境の形成



- 自然や歴史文化を感じる風景を損なわない建築物等の配置、植栽、照明とする。
- 各種資材等の集積等を行う場合は、緑化修景等を工夫し、周辺環境に配慮する。

人の暮らしと自然との調和



- 周辺の自然環境と調和するように、沿道の店舗・看板等のデザインに配慮する。
- 既存樹木の保全活用により、地域の自然環境との調和を図る。
- 緑と住宅が調和する集落景観が維持できるよう取り組む。

豊かな自然に溶け込むような色彩の景観づくり



- 建築物や工作物などは、豊かな自然の緑を生かし、緑の中に溶け込むような、自然との一体性に配慮した色を基本とするよう努める。
- 周囲の自然景観の中で目立つような、極端に明るい色や暗い色、鮮やかな色を用いないように努める。